



新
後
板
篇

嫁入法合指

下

口邊
1527
2止





門 禮 禮
番 1527
巻

○嫁方尊門の用もしく

服差一勝

代に元

百指目

他一以つておとん老刀折紙

大くお嫁入にいおまじり。嫁方の梅を差すもいさつ

旭はわれと南也いす舞のやまをいし候合にふいふぬい思ひす

○双方始祝書り合し事

嫁納付書

使者嫁

人同方

嫁方

河

嫁人

紫内下

奏君

お申

初ふ

婿婿

嫁人

使者を

納書

書物

書実

合し

婿

使者を

所へ

ひて書

物書

入

けり

婿

人

書

して書

物書

入

けり

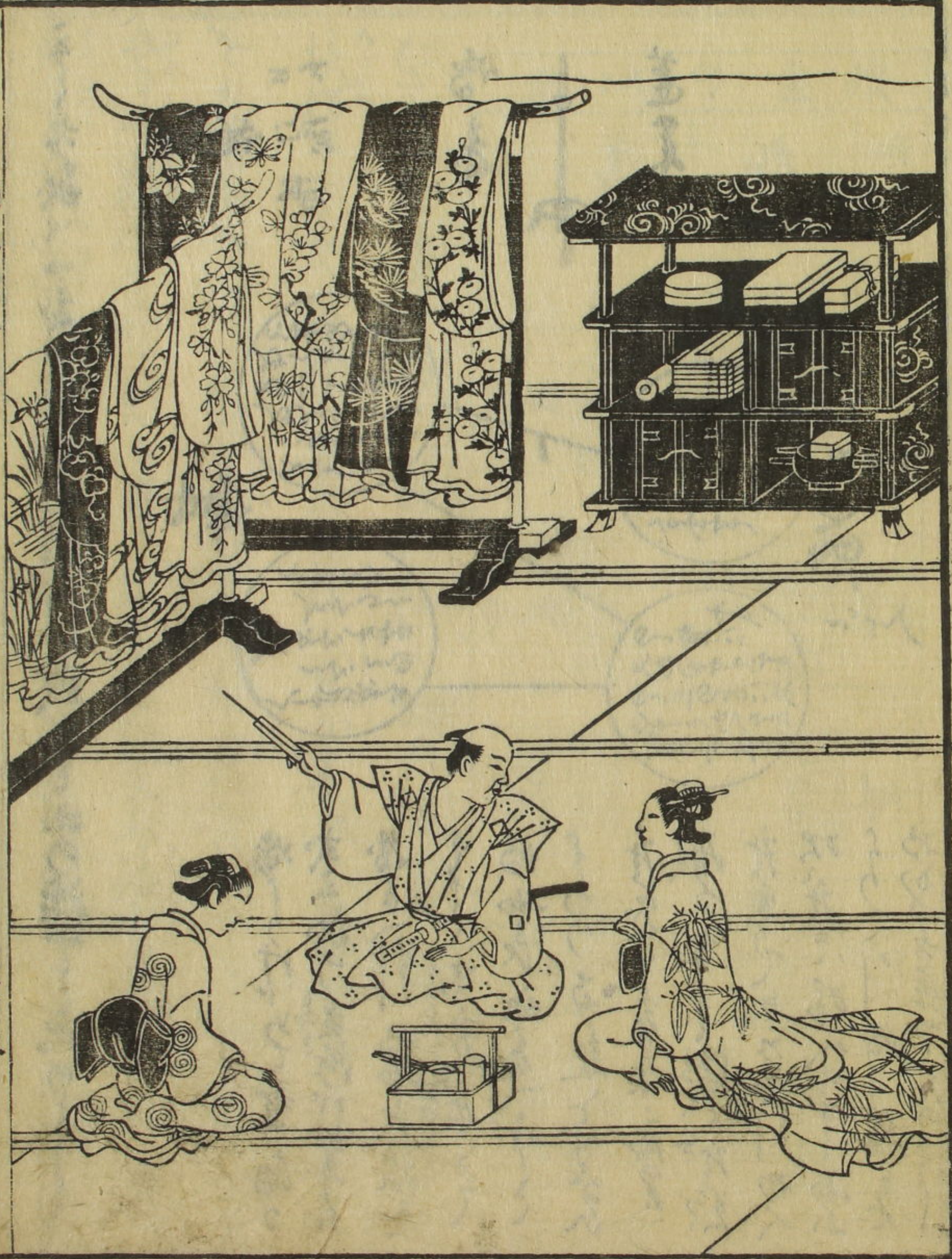
婿

人

書

嫁入候書

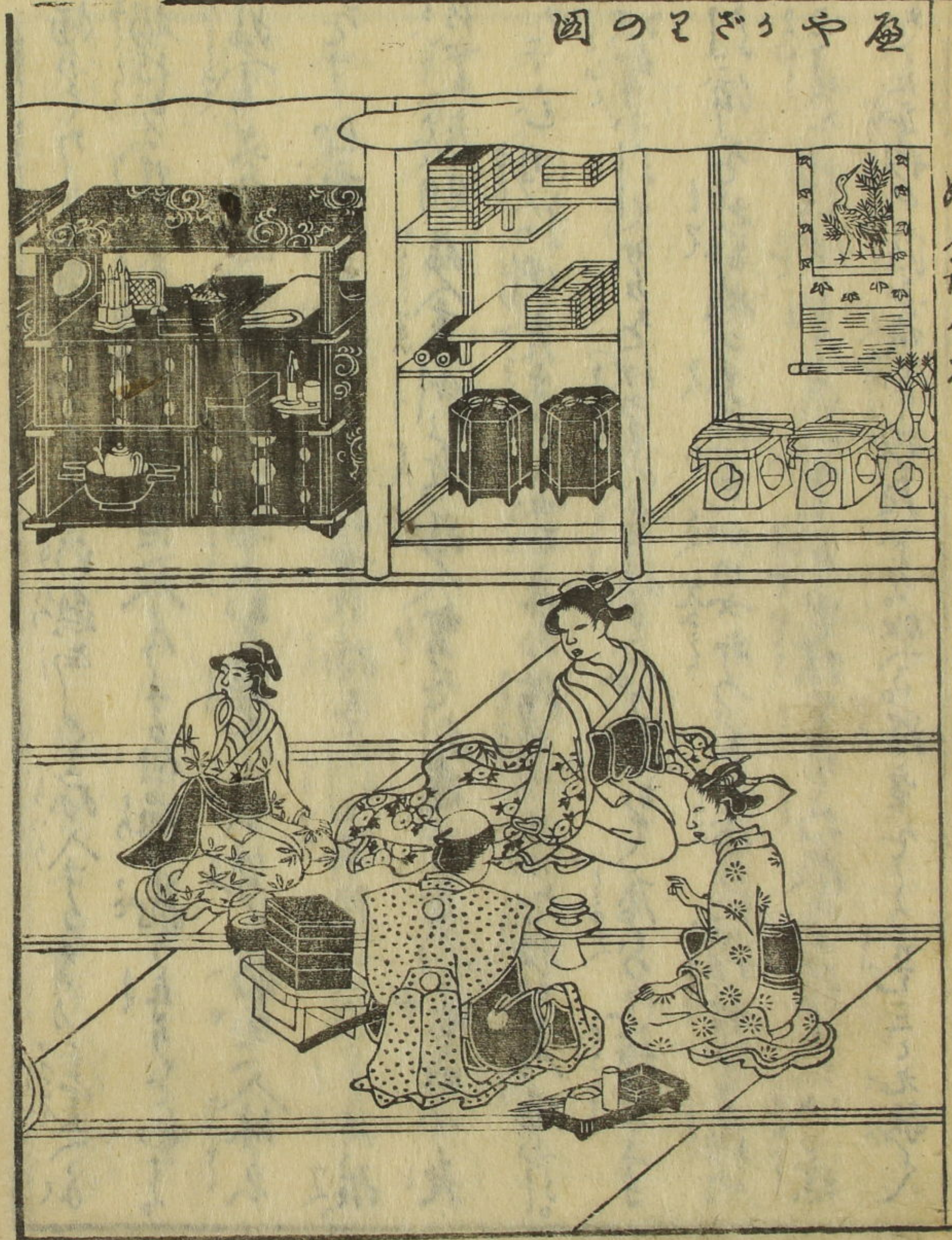
二十



江戸

三

屋敷の図



江戸

三

身を清りハ垢入同くして。床に漬候なり。此漬候のうけは、
 候いさゝかのあて、さうかひのし、新考のいさゝか
 ちのいさゝか、さうかひ、新考のいさゝか、
 不さうかひ、新考のいさゝか、
 物へ、新考のいさゝか、
 同様ふとく。大義式、新考のいさゝか、
 同様ふとく。

⊕ 上、下、部 武法

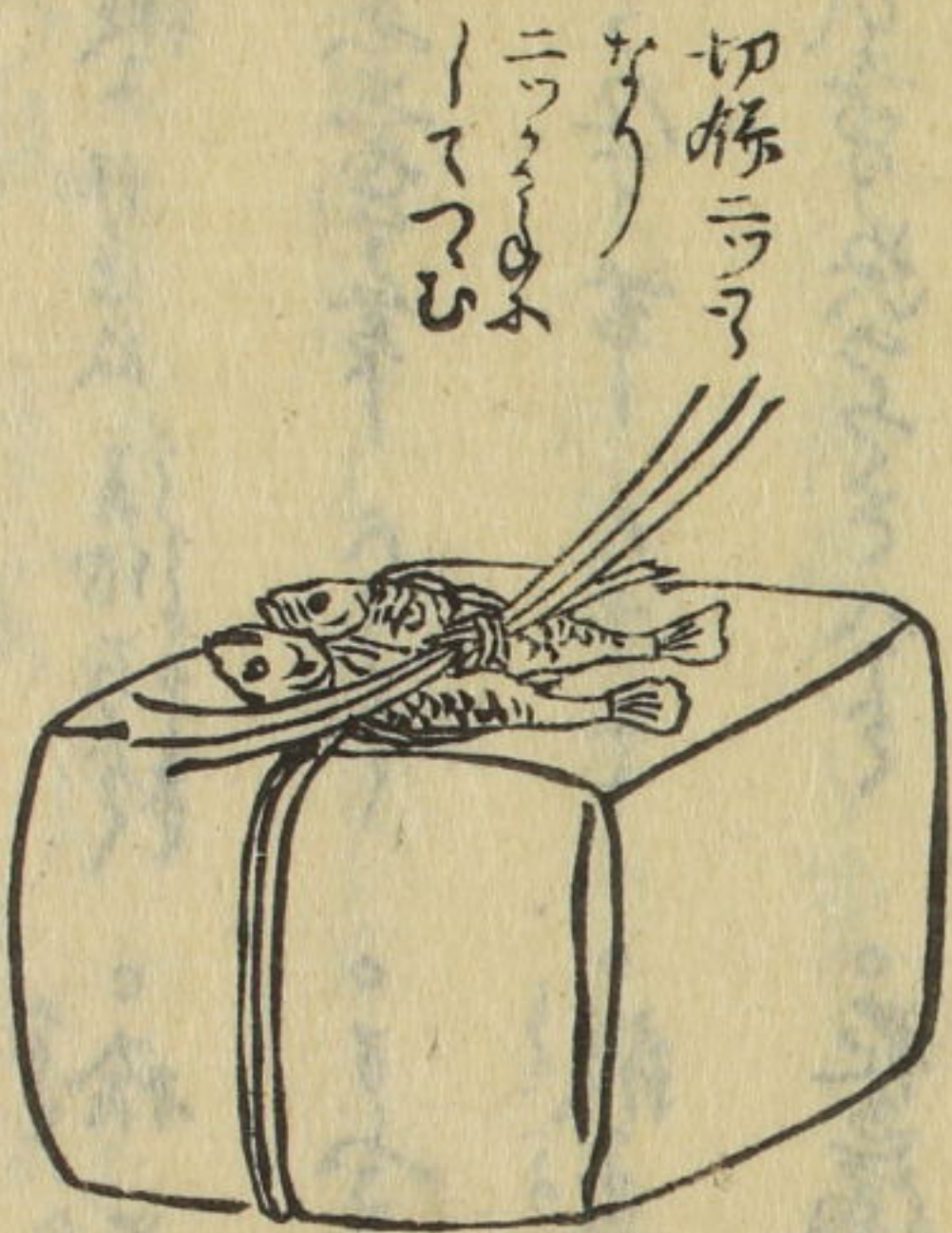
上、下、部の上、部より
五、七、九、十一、十三、十五、十七、十九、二十一、二十三、二十五、二十七、二十九、三十一、三十三、三十五、三十七、三十九、四十一、四十三、四十五、四十七、四十九、五十一、五十三、五十五、五十七、五十九、六十一、六十三、六十五、六十七、六十九、七十一、七十三、七十五、七十七、七十九、八十一、八十三、八十五、八十七、八十九、九十一、九十三、九十五、九十七、九十九、一〇一、一〇三、一〇五、一〇七、一〇九、一一一、一一三、一一五、一一七、一一九、一二一、一二三、一二五、一二七、一二九、一三一、一三三、一三五、一三七、一三九、一四一、一四三、一四五、一四七、一四九、一五一、一五三、一五五、一五七、一五九、一六一、一六三、一六五、一六七、一六九、一七一、一七三、一七五、一七七、一七九、一八一、一八三、一八五、一八七、一八九、一九一、一九三、一九五、一九七、一九九、二〇一、二〇三、二〇五、二〇七、二〇九、二一一、二一三、二一五、二一七、二一九、二二一、二二三、二二五、二二七、二二九、二三一、二三三、二三五、二三七、二三九、二四一、二四三、二四五、二四七、二四九、二五一、二五三、二五五、二五七、二五九、二六一、二六三、二六五、二六七、二六九、二七一、二七三、二七五、二七七、二七九、二八一、二八三、二八五、二八七、二八九、二九一、二九三、二九五、二九七、二九九、三〇一、三〇三、三〇五、三〇七、三〇九、三一

○ 賢方結納、一、車

金子千疋。白綿子一疋。紅疋疋。紺疋疋。沖酒、
 右、新考のいさゝか、
 同様ふとく。

○ 結方結納、良用、一、車

とく、部、新考のいさゝか、
 同様ふとく。



切候、新考のいさゝか、
 同様ふとく。

九、新考のいさゝか、
 同様ふとく。

為、新考のいさゝか、
 同様ふとく。

○ 結方新物結、一、車

草膏ソウコウ。為タ。膏コウ。膏コウ。新膏シンコウ。搜膏ソウコウ

衣柳イリウ。小神丸コカニワ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ。白シロ

けいさの... 記せり

をりん合考...

○前如入... 法り...

○當日... 法り...

人教後刻とノ部...

以題... 爲春... 檢名...

白... 白... 白... 白... 白... 白...

主実... 部...

効... 部...

○ 聲入

中々部おのゝり後方の他はをり
やうに百半よりかまふべし

たしおに下下し後方の他はもおまに松あり
いともあがりおまおれり果してあつた。元はおの他は
そめておれりつる派おまおれり。必、おまお
まはぐん婦人おまおれりおまの指しをすべし

○ 床を聲ありの事

床を声ありの事。聲ありてををり。おまをす。け付
聲ありて物をいり。け付ま甚く大事あり。先入を
おまのまあて。一生おまのまあて。おまのまあて
おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

たふあられ。聲ありて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

一生おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて。おまのまあて

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing from the previous page. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten marginal note in Arabic script, located on the right side of the page.

○ 1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

○ 1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

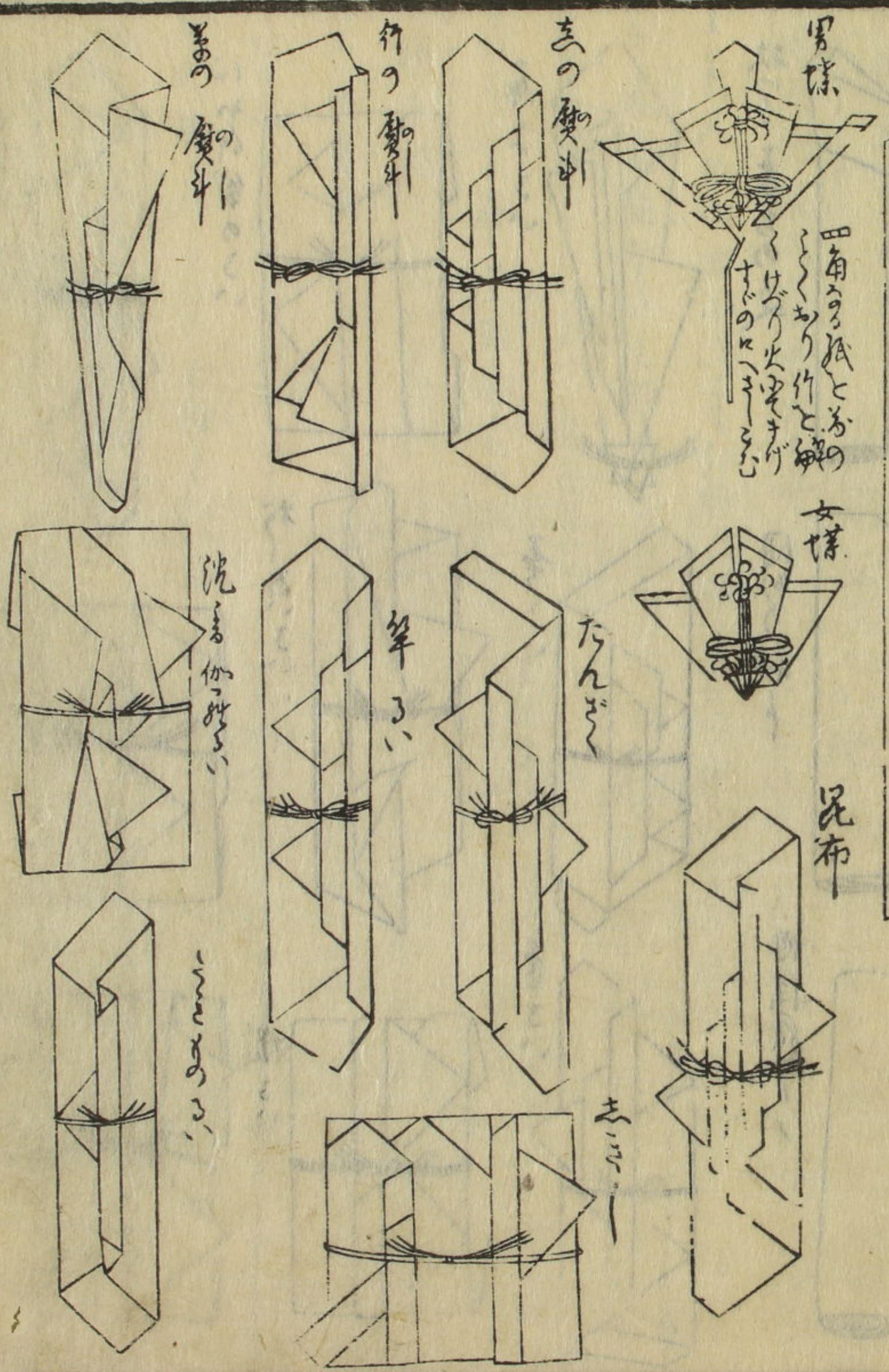
始入清台抄

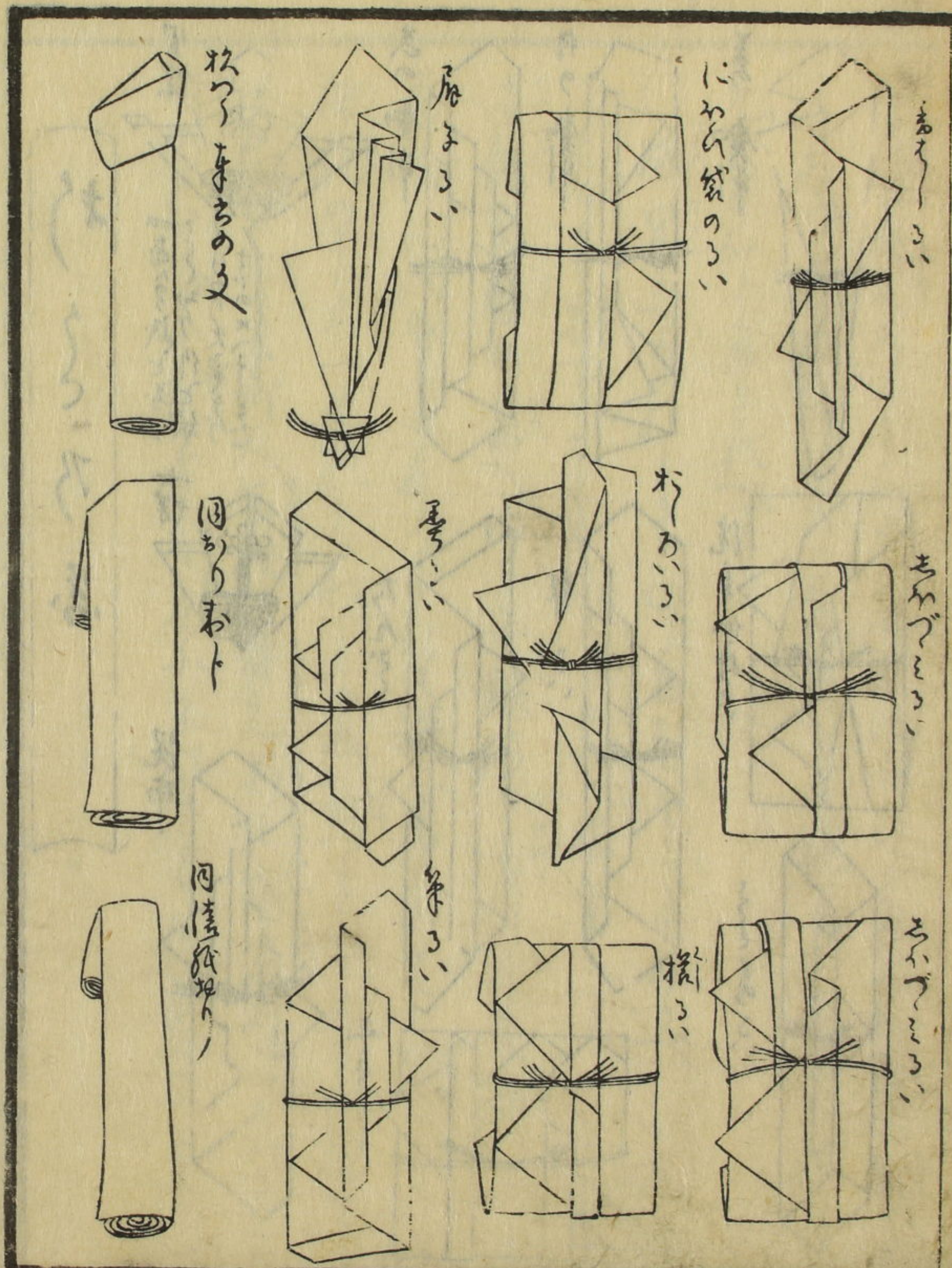
十三

増礼義式ありしりその一はふりあど知事へ宛る
 ことありむ白ひしりたりむ種別やども宛ることある餅茶
 凡ふ斗帳と月をんざり

○増里よりれまはむをきりありざり法合
 少りりり男するまらりきて増里このの或
 お歸て誓の意へゆふ娘のち産して解とつと
 房桶に入きりありしり法合ありして男する
 増礼のしり一生れされしりおはむかみか
 もむまねしり町人百姓の身えお盛衰あるりたれは
 時の分派ふ意へお直ふすべしり折あるりしり

折るこ乃意





化粧 容顏美粧考

此の化粧は婦人化粧の仕方を専らに
 いう月ど美人の仕方少くも化粧乃粧
 あつては美粧粧なりと粧しを
 此の傳書と常によくわづかひ自然化粧乃
 上り少かりいふ粧は工面要装法教もも
 惣小町揚巻妃々とみかまに化粧を
 かん後より自由自在なれど婦人化粧の
 必よとたすつてかまそぬやかり

○小式式冊さし入玉極さしあふ
 本少くは遺物桐箱入も所存に

神佛靈驗記圖會

此の神佛祈て一子とりけ佛は誓て種々病
 験とのがれ或も其家繁栄幸福と祈ふも必有
 字を記て神佛に懸る廣大なる徳を平かひ
 新板 高人取引帖 懐中本
 文章 全巻冊

此の神佛の靈驗記は予世人知らず是と
 有る用文何れも其意は其内を差の文
 云と省き置いとて物小商人日用の文通と
 多くはけり次小四季の増着祝儀乃折見
 控山鏡水の誘ひ状に至ると子娘さ文云は
 六才安万里乃往返も家あまときよとく
 終の小本やれと便用の大成なり人ふもの

御書物所

大阪公称橋通 南久吉所

志月や季女

